

## 大阪市議選 「不安」と期待

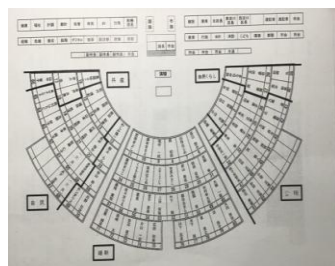
昨日 31 日に大阪市議選も告示された。9 日に府知事・大阪市長のダブル選、府議選とともに投開票される。定数 81 に 125 人が立候補した。なかでも地域政党・大阪維新の会は単独過半数を狙い、過去最多の 50 人を擁立した。

「まさか本当にここまでそろえてくるとは……」。自民党府連の幹部は。市議選での維新の擁立攻勢を衝撃をもって受け止める。定数 4 の選挙区に 3 人、定数 5 の選挙区に 3 人……。維新は今回、多くの選挙区で定数に近い人数の候補者を公認した。港区選挙区(定数 2)のように 2 人を立てて独占を目指す場所もある。従来の選挙セオリーを度外視した大量擁立で、維新内部ですら「むちゃな状況」との声が上がるほどだ。3 月下旬までに発表した公認は 50 人。選挙が迫った 2~3 月には新人 9 人を立て続けに擁立した。今回より定数が 2 つ多い 83 だった前回選(2019 年、擁立人数 43 人)よりも 7 選挙区で候補者を 1 人ずつ増やす。

今回、過半数を取れなければ党代表を辞任する意向を示す吉村洋文氏は「維新の政策をスピード感をもって進めるには過半数は不可欠。これくらい積極的に擁立しないと難しい」と語る(毎日新聞 3 月 25 日夕刊)。

維新は 50 人(現職 35 人、新顔 15 人)を公認。淀川区や城東区など定数 5 以上の選挙区では全て 3 人を擁立する。さらに定数 4 の北区で 3 人、定数 2 の港区では 2 人を擁立するなど強気の選挙戦略を立てる。共倒れになるリスクもあるが、市議会での初めての過半数獲得に向けて、積極擁立の体制で選挙戦に臨む(朝日新聞 3 月 27 日朝刊)。

写真は 3 月 15 日に大阪市議会本会議を傍聴したときの資料。真中がどかんと維新、右が公明の議員が座っている。議案の大半は両党の賛成多数で通ってしまう。レポートにも書いてきたように、夢洲 IR カジノ関連の陳情書を出し続けてきたが、委員会で維新・公明の委員の反対により不採択とされた。もし維新が過半数を占めることになれば、これまで以上に市民の声を無視して、「維新のための政治」が行なわれることになるだろう。大阪府議会では、維新が過半数を占めており、少数会派を無視した議会運営が続けられている。大阪市議会を府議会のようにしてはならない。



正直なところ、大阪市議選に対して「不安」を感じている。だが、維新内部ですら「むちゃな状況」という声が上がるほどで、選挙が迫ってから新人 9 人を擁立するなどしている。ここに非維新側は「逆転」のチャンスがあるのではないか。確かに、前回の選挙区ごとの得票を見れば、維新候補者の多くが当選圏内に入りそうである。それから 4 年が経ち、大阪市廃止、IR カジノ反対など非維新側の動きも活発化してきた。維新候補者の乱立により、9 日の投開票では維新共倒れを期待したい。

(2023年4月1日)